

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年8月10日

【四半期会計期間】 第65期第1四半期(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

【会社名】 アトムクス株式会社

【英訳名】 ATOMIX CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 小林 和幸

【本店の所在の場所】 東京都板橋区舟渡三丁目9番6号

【電話番号】 03(3969)3111

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理統括部長 喜多 幸一

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区神田富山町18番地

【電話番号】 03(5297)1801

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理統括部長 喜多 幸一

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第64期 第1四半期連結 累計期間	第65期 第1四半期連結 累計期間	第64期
会計期間	自 平成22年 4月 1日 至 平成22年 6月 30日	自 平成23年 4月 1日 至 平成23年 6月 30日	自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月 31日
売上高 (千円)	2,306,607	2,108,069	10,138,712
経常損益(は損失) (千円)	9,165	24,178	195,009
四半期(当期)純損益 (は損失) (千円)	3,482	32,499	20,800
四半期包括利益又は包 括利益 (千円)	628	12,970	35,608
純資産額 (千円)	8,904,122	8,770,494	8,867,885
総資産額 (千円)	13,378,751	13,158,693	13,518,416
1株当たり四半期 (当期)純損益金額 (は損失) (円)	0.41	3.84	2.46
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	66.6	66.7	65.6

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成していますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2 売上高には、消費税等は含まれていません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

4 第64期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しています。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社、以下同じ)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものです。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間は、3月11日に発生した東日本大震災や原子力発電所の事故で多くの原材料メーカーや部品メーカーが被災し、わが国の製造業や経済活動に大きな影響を与えました。当社におきましても、被災地域から供給を受けていた一部の原材料が入手困難となりましたが、代替原材料への置換を進めるなど、お客様への製品の安定供給に最善をつくしてまいりました。また、震災後の需要減を見込み、コスト削減、経費節減に努めましたが、ナフサ価格の高騰に伴う塗料原材料の値上がりが想定以上となり、利益面で厳しい状況が続きました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高21億8百万円（前年同期 売上高23億6百万円）、営業損失20百万円（同 営業利益12百万円）、経常損失24百万円（同 経常利益9百万円）、四半期純損失32百万円（同 四半期純利益3百万円）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

< 塗料販売事業 >

震災後、回復基調にあった設備投資や消費者心理に慎重さが現れたことに加え、被災地域以外の官公庁でも予算執行が手控えられたため、建築用、家庭用、道路用の全分野で出荷量が減少しました。この結果、当第1四半期連結累計期間の塗料販売事業の売上高は前年同期間に比べて1億81百万円減少し、20億73百万円（前年同期比8.1%減）となりました。

< 施工事業 >

子会社による路面標示工事、高速道路のコンクリート剥落防止工事の受注が減少しました。その結果、当第1四半期連結累計期間の施工事業の売上高は前年同期間に比べて16百万円減少し、34百万円（同33.0%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は131億58百万円（前連結会計年度末比3億59百万円減少）となりました。これは主に流動資産の減少によるもので、商品及び製品と仕掛品で3億8百万円増加したものの、現金及び預金、受取手形及び売掛金で6億76百万円減少したためです。

当第1四半期連結会計期間末の負債は43億88百万円（同2億62百万円減少）となりました。これは主に流動負債の減少によるもので、未成工事受入金（その他）が1億23百万円増加したものの、支払手形及び買掛金、未払法人税等及び引当金により、3億40百万円減少したためです。

当第1四半期連結会計期間末の純資産は87億70百万円（同97百万円減少）となりました。これは主に利益剰余金からの配当（84百万円）によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は50百万円で、遮熱塗料などの機能製品の性能向上、防水材料の耐汚染性の向上、コーティング材の開発など全て塗料販売事業の研究開発に投入しました。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成23年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	9,440,000	9,440,000	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	9,440,000	9,440,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年4月1日 ~平成23年6月30日		9,440,000		1,040,000		680,400

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成23年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしています。

【発行済株式】

平成23年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 997,000		単元株式数 1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,439,000	8,439	同上
単元未満株式	普通株式 4,000		
発行済株式総数	9,440,000		
総株主の議決権		8,439	

【自己株式等】

平成23年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
アトミクス株式会社	東京都板橋区舟渡3-9-6	997,000		997,000	10.56
計		997,000		997,000	10.56

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しています。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人保森会計事務所による四半期レビューを受けています。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,762,679	2,476,867
受取手形及び売掛金	4,137,016	3,745,945
商品及び製品	850,348	1,025,013
仕掛品	222,352	356,075
原材料及び貯蔵品	512,488	498,025
その他	267,187	311,399
貸倒引当金	141,300	123,970
流動資産合計	8,610,771	8,289,356
固定資産		
有形固定資産		
土地	2,744,050	2,744,050
その他(純額)	1,434,754	1,405,898
有形固定資産合計	4,178,805	4,149,948
無形固定資産	141,805	137,655
投資その他の資産	587,033	581,732
固定資産合計	4,907,644	4,869,337
資産合計	13,518,416	13,158,693
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,801,690	2,681,023
短期借入金	387,844	370,344
未払法人税等	101,569	10,269
引当金	203,679	74,856
その他	390,038	531,722
流動負債合計	3,884,821	3,668,214
固定負債		
長期借入金	285,780	250,069
退職給付引当金	264,928	266,356
引当金	126,727	109,976
資産除去債務	37,844	37,980
その他	50,430	55,602
固定負債合計	765,709	719,984
負債合計	4,650,530	4,388,199

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,040,000	1,040,000
資本剰余金	680,400	680,400
利益剰余金	7,546,757	7,429,837
自己株式	380,175	380,175
株主資本合計	8,886,981	8,770,061
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	34,420	37,311
為替換算調整勘定	53,516	36,878
その他の包括利益累計額合計	19,096	432
純資産合計	8,867,885	8,770,494
負債純資産合計	13,518,416	13,158,693

(2)【四半期連結損益及び包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高		
商品及び製品売上高	2,255,545	2,073,839
工事売上高	51,061	34,230
売上高合計	2,306,607	2,108,069
売上原価		
商品及び製品売上原価	1,514,979	1,413,606
工事売上原価	48,827	29,501
売上原価合計	1,563,807	1,443,107
売上総利益	742,799	664,962
販売費及び一般管理費	729,878	685,890
営業利益又は営業損失()	12,920	20,928
営業外収益		
受取利息	35	98
受取配当金	2,788	3,072
受取保険金	2,657	-
その他	2,253	2,662
営業外収益合計	7,733	5,833
営業外費用		
支払利息	3,700	2,709
為替差損	7,788	4,224
貸倒引当金繰入額	-	2,150
営業外費用合計	11,489	9,084
経常利益又は経常損失()	9,165	24,178
特別利益		
貸倒引当金戻入額	25,763	-
特別利益合計	25,763	-
特別損失		
固定資産売却損	68	-
固定資産除却損	27	99
ゴルフ会員権評価損	-	1,100
リース解約損	269	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	15,384	-
特別損失合計	15,749	1,199
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	19,179	25,377
法人税、住民税及び事業税	8,501	9,536
法人税等調整額	7,195	2,414
法人税等合計	15,696	7,121
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	3,482	32,499
四半期純利益又は四半期純損失()	3,482	32,499

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	3,482	32,499
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13,209	2,890
為替換算調整勘定	10,355	16,638
その他の包括利益合計	2,854	19,529
四半期包括利益	628	12,970
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	628	12,970
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年6月30日)
1. 税金費用の計算	税金費用については、一部の連結子会社においては、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純損益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しています。

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年6月30日)
当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しています。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額 投資その他の資産 9,629千円	1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額 投資その他の資産 11,779千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む)は、次のとおりです。

前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年6月30日)
減価償却費 72,712千円	減価償却費 65,528千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	84,420	10	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	84,420	10	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	塗料販売事業	施工事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	2,255,545	51,061	2,306,607	2,306,607
セグメント間の内部売上高 又は振替高	9,903	-	9,903	9,903
計	2,265,448	51,061	2,316,510	2,316,510
セグメント利益又は損失()	106,154	6,325	99,828	99,828

(注) 1. 当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号平成20年3月31日)を適用しています。これにより、塗料販売事業のセグメント利益は358千円減少しています。

2. 前連結会計年度末より、国内連結子会社アトムサポート(株)の広告宣伝用販促物をたな卸資産として計上する方法から費用処理する方法に変更しています。なお、前第1四半期連結会計期間に変更後の処理方法を適用した場合、塗料販売事業の営業利益は6,718千円減少します。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	99,828
全社費用(注)	86,907
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益	12,920

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	塗料販売事業	施工事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	2,073,839	34,230	2,108,069	2,108,069
セグメント間の内部売上高 又は振替高	16,436	-	16,436	16,436
計	2,090,275	34,230	2,124,505	2,124,505
セグメント利益又は損失()	67,631	4,395	63,236	63,236

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額
 及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	63,236
全社費用(注)	84,164
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業損失()	20,928

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりです。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額()	0.41円	3.84円
(算定上の基礎)		
四半期純利益又は四半期純損失()(千円)	3,482	32,499
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失()(千円)	3,482	32,499
期中平均株式数(千株)	8,442	8,442

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年 8 月 8 日

アトミクス株式会社

取締役会 御中

監査法人 保森会計事務所

代表社員
業務執行社員 公認会計士 三 枝 哲 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 小 山 貴 久 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアトミクス株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アトミクス株式会社及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。